

## 環境調査結果について

## (1) 排ガス調査結果

調査機関：株式会社環境技術研究所

項目	基準値		炉	調査年月日			単位
	法律	協定書		1号	平成30年12月27日	平成31年1月28日	
			2号	平成30年12月28日	平成31年1月29日	平成31年3月1日	
ばいじん	0.04	0.01	1号	不検出	不検出	不検出	g/m <sup>3</sup> N
			2号	不検出	不検出	不検出	
硫黄酸化物	91	10	1号	不検出	不検出	不検出	ppm
			2号	不検出	不検出	不検出	
窒素酸化物	85	50	1号	39	35	36	ppm
			2号	40	34	36	
塩化水素	430	10	1号	不検出	不検出	不検出	ppm
			2号	不検出	不検出	不検出	
水銀	50	—	1号	0.28	0.21	0.39	μg/m <sup>3</sup> N
			2号	0.22	0.21	0.10	

(注)

- 1 「不検出」とは、定量下限値未満を表します。
- 2 各項目の値は、酸素濃度12%換算値です。
- 3 m<sup>3</sup>N(ノルマル立方メートル)は、0℃、1気圧の標準状態における気体の体積を表します。
- 4 ppmは、100万分の1の割合を表します。

## (2) 排水調査結果

調査機関：ユーロフィン日本環境株式会社

No.	項目	基準値	調査年月日			単位
			平成30年10月1日	平成30年12月5日	平成31年2月5日	
1	温度	45未満	26.4	18.9	15.4	°C
2	水素イオン濃度 (pH)	5を超え 9未満	7.9	7.9	8.0	—
3	生物化学的酸素要求量 (BOD)	600未満	4	6	12	mg/L
4	浮遊物質 (SS)	600未満	1	1	1	mg/L
5	ノルマルヘキサン抽出物 質含有量	30以下	不検出	不検出	2	mg/L
6	フェノール類	5以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
7	銅及びその化合物	3以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
8	亜鉛及びその化合物	2以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
9	鉄及びその化合物 (溶解性)	10以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
10	マンガン及びその化合物 (溶解性)	10以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
11	クロム及びその化合物	2以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
12	窒素含有量	120未満	2.2	6.5	3.9	mg/L
13	燐含有量	16未満	不検出	不検出	不検出	mg/L
14	沃素消費量	220未満	16	18	42	mg/L
15	カドミウム及びその化合物	0.03以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
16	シアン化合物	1以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
17	有機燐化合物	1以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
18	鉛及びその化合物	0.1以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
19	六価クロム化合物	0.5以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
20	砒素及びその化合物	0.1以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
21	水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物	0.005以下	不検出	不検出	不検出	mg/L

No.	項目	基準値	調査年月日			単位
			平成30年10月1日	平成30年12月5日	平成31年2月5日	
22	アルキル水銀化合物	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	mg/L
23	ポリ塩化ビフェニル (PCB)	0.003以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
24	トリクロロエチレン	0.1以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
25	テトラクロロエチレン	0.1以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
26	ジクロロメタン	0.2以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
27	四塩化炭素	0.02以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
28	1,2-ジクロロエタン	0.04以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
29	1,1-ジクロロエチレン	1以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
30	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.4以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
31	1,1,1-トリクロロエタン	3以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
32	1,1,2-トリクロロエタン	0.06以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
33	1,3-ジクロロプロペン	0.02以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
34	ベンゼン	0.1以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
35	1,4-ジオキサン	0.5以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
36	シマジン	0.03以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
37	チオベンカルブ	0.2以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
38	チウラム	0.06以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
39	セレン及びその化合物	0.1以下	不検出	不検出	不検出	mg/L
40	ふっ素及びその化合物	8以下	0.15	0.13	0.14	mg/L
41	ほう素及びその化合物	10以下	0.48	0.27	0.45	mg/L

(注) 「不検出」とは、定量下限値未満を表します。

### (3) 騒音調査結果

調査年月日：稼働時 平成30年6月4日(月)～5日(火)

停止時 平成30年11月20日(火)～21日(水)

調査機関：株式会社東京環境測定センター

単位：デシベル

時間区分	昼間			夕			夜間			朝		
調査時間	(12時～15時)			(20時～22時)			(0時～2時)			(6時～8時)		
調査地点	基準値	稼働時	停止時	基準値	稼働時	停止時	基準値	稼働時	停止時	基準値	稼働時	停止時
S-1	50	49	55	45	44	51	45	44	48	45	45	53
S-2		50	57		45	53		46	50		45	55
S-3		48	56		45	50		44	52		46	56
S-4		52	54		45	54		44	56		45	58
S-5		50	51		44	50		44	46		45	50
S-6		50	49		45	46		45	44		45	46
S-7		50	49		44	45		44	45		43	46
S-8		48	45		44	45		43	46		44	46
S-9		48	52		42	40		42	42		44	46
S-10		47	46		43	43		44	41		45	42
S-11		48	45		45	44		42	42		44	44
S-12		49	46		41	43		39	40		40	43
S-13		50	48		43	43		42	44		44	45
S-14		47	48		45	46		43	45		45	47
S-15		47	48		45	46		44	46		45	47
S-16		48	50		45	47		45	47		45	47

(調査地点は、P6を参照してください。)

#### 【調査機関の見解】

練馬清掃工場における騒音測定結果と基準値を比較すると、稼働時の騒音レベルが基準値を超えている調査地点(昼のS-4、夜のS-2、朝のS-3)は、稼働時のレベルが停止時のレベル以下であることから、周辺道路の自動車などの周辺環境の影響を受けている事が推察される。

なお、上記以外の測定点においては基準値を満足していた。

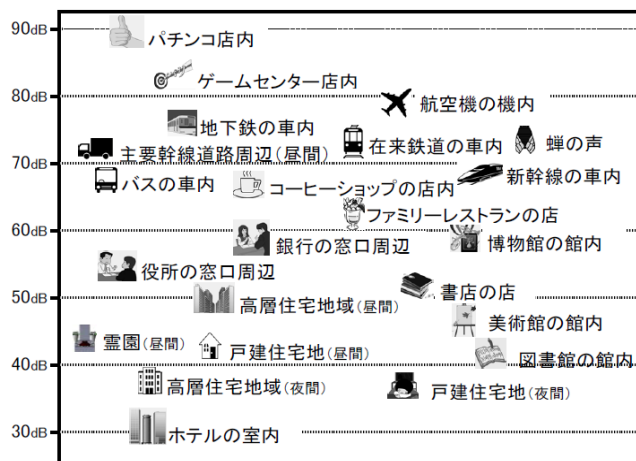


図 騒音の目安(都心・近郊用)

(出典「全国環境研協議会 騒音小委員会」)

## (4) 振動調査結果

調査年月日 : 稼働時 平成30年6月4日(月)～ 5日(火)

停止時 平成30年11月20日(火)～ 21日(水)

調査機関 : 株式会社東京環境測定センター

単位:デシベル

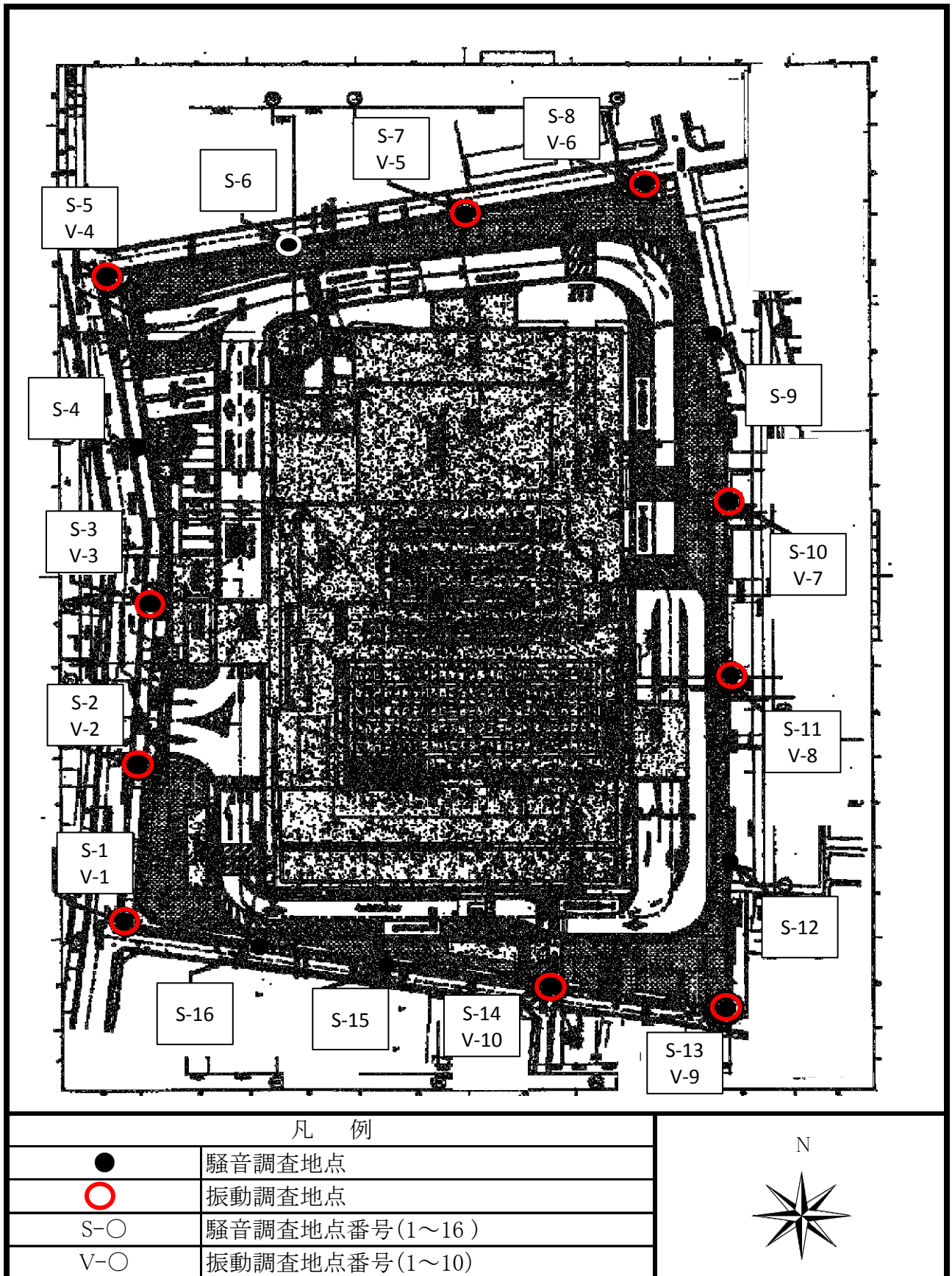
時間区分	昼間			夜間		
調査時間	(13時～15時)			(0時～2時)		
調査地点	基準値	稼働時	停止時	基準値	稼働時	停止時
V-1	60	34	32	55	25	27
V-2		34	34		30	29
V-3		35	33		30	30
V-4		33	30		26	26
V-5		33	30		33	28
V-6		28	28		26	23
V-7		27	22		25	23
V-8		26	26		25	25
V-9		27	27		21	21
V-10		28	28		22	22

(調査地点は、P6を参照してください。)

【振動のめやす】 出典:「東京の環境2011」(東京都環境局)

デシベル	50	60	70	80	90
状態	人体に感じない程度	静止している人にだけ感じる	大勢の人に感じる程度で、戸、障子がわずかに動く	家屋が揺れ、戸、障子がガタガタと音をたてる	家屋が激しく揺れ、すわりの悪いものが倒れる

# 騒音・振動調査地点位置図



## (5) ごみ性状調査結果

調査機関：ユーロフィン日本環境株式会社

(ごみの物理組成(湿ベース重量%))

分類項目	調査年月日	平成30年10月10日	平成31年1月18日	平均値
	可燃物		98.60	98.95
	紙類	36.50	45.89	41.20
	繊維	6.33	3.96	5.15
	厨芥	23.30	22.28	22.79
	木草	11.50	4.27	7.89
	プラスチック類	18.06	19.56	18.81
	ゴム・皮革	1.16	1.09	1.13
	その他可燃物	1.75	1.90	1.83
不燃物		1.40	1.05	1.23
	金属	0.24	0.33	0.29
	ガラス	0.27	0.32	0.30
	石・陶器	0.02	0.02	0.02
	その他不燃物	0.87	0.38	0.63
合計		100.00	100.00	100.00

(注)

端数処理のため、平均値または合計が一致しない場合があります。

## (6) ダイオキシン類調査結果

調査機関：ユーロフィン日本環境株式会社

項目		基準値	調査値	調査年月日	単位
排ガス	1号炉	0.1	0.00000054	平成31年1月28日	ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
	2号炉		0.00000013	平成31年1月29日	
			0.000000060	平成31年3月1日	
飛灰処理汚泥		3	※	※	ng-TEQ/g
焼却灰		3	※	※	ng-TEQ/g
排水		10	※	※	pg-TEQ/L
雨水排水		10	※	※	pg-TEQ/L

(注)

- 1 ダイオキシン類は、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン、コプラナーポリ塩化ビフェニルの総称です。
- 2 TEQ(毒性等量)とは、ダイオキシン類の量を最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値です。
- 3 排ガス中のダイオキシン類の値は、酸素濃度12%換算値です。
- 4 ng(ナノグラム)は10億分の1グラム、pg(ピコグラム)は1兆分の1グラムの質量を表します。
- 5 m<sup>3</sup>N(ノルマル立方メートル)は、0°C、1気圧の標準状態における気体の体積を表します。
- 6 飛灰処理汚泥は、飛灰を薬剤処理(ダイオキシン類対策特別措置法で定められた処理)したものです。

※ 年1回測定のため、今回記載なし



## (7) 周辺大気中のダイオキシン類調査結果

- 1 調査年月日 平成30年9月10日(月)から平成30年9月17日(月)(稼働時7日間連続サンプリング)
- 2 調査場所 工場及び周辺4か所の計5か所
- 3 調査方法 ダイオキシン類に係る大気環境調査マニュアル(環境省:平成20年3月)
- 4 調査機関 ユーロフィン日本環境株式会社
- 5 調査結果

No.	調査場所	所在地	調査値	単位
1	練馬清掃工場	練馬区谷原6-10-11	0.013	pg-TEQ/m <sup>3</sup>
2	練馬区立大泉第一小学校	練馬区大泉町3-16-23	0.013	
3	練馬区立泉新小学校	練馬区三原台3-18-30	0.011	
4	練馬区立豊溪小学校	練馬区土支田2-26-28	0.011	
5	練馬区立谷原小学校	練馬区谷原2-9-26	0.013	

(調査場所は、P.10を参照してください。)

(注)

- 1 ダイオキシン類は、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン、コプラナーポリ塩化ビフェニルの総称です。
- 2 TEQ(毒性等量)とは、ダイオキシン類の量を最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値です。
- 3 pg(ピコグラム)は、1兆分の1グラムの質量を表します。

調査日の天気

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
曇後雨後曇	曇後晴	曇後雨後曇一時晴	曇後雨	雨後曇後雨	雨後曇	晴後曇後晴

調査日の気象条件(7日間の平均値)

気温	湿度	雨量	主な風向	風速
22.8℃	76%	64.5mm	北西	2.0m/s

(注) 雨量は7日間の合計値を示し、風向は最多出現を示します。

### 6 まとめ

- (1) 調査結果の値は、環境省が定める大気中ダイオキシン類の環境基準である0.6 pg-TEQ/m<sup>3</sup>(年平均値)と比べ、十分に低い値である。
- (2) 練馬清掃工場煙突でのダイオキシン類調査結果(0.00000062 ng-TEQ/m<sup>3</sup>N:平成30年7月4日、9月10日それぞれの測定結果の平均値)と調査日の気象条件等から大気拡散シミュレーションを行ったところ、拡散倍率は30万倍、周辺大気環境に与える影響は最大で0.0000000021 pg-TEQ/m<sup>3</sup>Nであり、調査結果と比べて小さい。
- (3) 以上のことから、今回の調査結果では練馬清掃工場の排ガス中のダイオキシン類が周辺大気環境に与える影響は極めて小さいといえる。

# 周辺大気中のダイオキシン類調査場所概略図

